

ふろタンの「らんまん」

室井 隆良

2023年5月22日付のふろタン通信No. 47は、小説「その日から…」の新出版事業について「準備が整い、いよいよ出版です！」と書いていました。

ホームページのふろタン通信バックナンバーコーナーをチョット覗いてみましょう。No. 1は2014年2月28日付ですが、その前に「URワンダーフォーゲル同好会」が設立40周年記念事業として2013年3月に行ったミャンマー遠征ビクトリア山登山を載せた機関紙「渡り鳥通信」No. 910(2013.4.15)をNo. 0として掲載しています。

この時の「ワンゲル同好会」の活動を引き継いだ「ふろタン工房」、NHKの朝ドラで「らんまん」が始まってからは、「ふろタン工房も牧野植物園とは色々付き合いがあったね」と話しかけてくる人がいたりしていました。

1. 「渡り鳥通信」No. 910から「ふろタン通信」No. 2へ

渡り鳥通信には「3月27日 メンバー6名とガイドのウィメンティさん ナマタン国立公園事務所スタッフの総勢8名が8:00パジェロで出発。登山口でジャイカの草の根技術協力のリーダーとして2年間に亘って現地で薬用ランや蒟蒻の栽培を村人に教えてきたアースウォッチジャパンの安田重雄さんと会う。ウィメンティさんも草の根技術協力のスタッフの一人。国立公園の中に山の頂上付近を抜ける車の道が最近造られてしまい、その調査に来られていたが、さらに奥にある集落への生活路でもあり難しい問題」と書かれていて、9:45歩行開始 パゴダのあるピークでのメンバーの写真と登山口で安田さんと名刺交換している写真を載せていました。



渡り鳥通信の翌年の2014年4月4日付「ふろタン通信」No. 2には、3月14～20日に実施した「ビクトリア山第二次現地調査登山」に、まちナビ倶楽部の森角さん・三宮さんと一緒に参加したリーダーの赤川勉さんが感想を載せています。「大都市ヤンゴン市内はまさに日本の高度成長時代を思わせ街はいたるところで建築のラッシュ、通勤時は車の大渋滞。とにかくエネルギーッ！そんな中、リゾート地で古都バガンでは圧倒されるパゴダ群、そして、今まで秘境的地域のチン州ナマトン国立公園の神が宿る山「ビクトリア山」はわれわれを温かく迎えてくれました。」

オアシスリゾートでの意見交換会の写真には、第1次隊と同じ通訳のウィメンティさんと三宮さん・赤川さん・森角さん、向かい側に前公園事務所長と安田さんが写っています。そして翌日帰りの挨拶に寄ったナマトン国立公園事務所での写真にはテン・シャー・ソウ所長と一緒に牧野植物園の藤川さんも写っています。



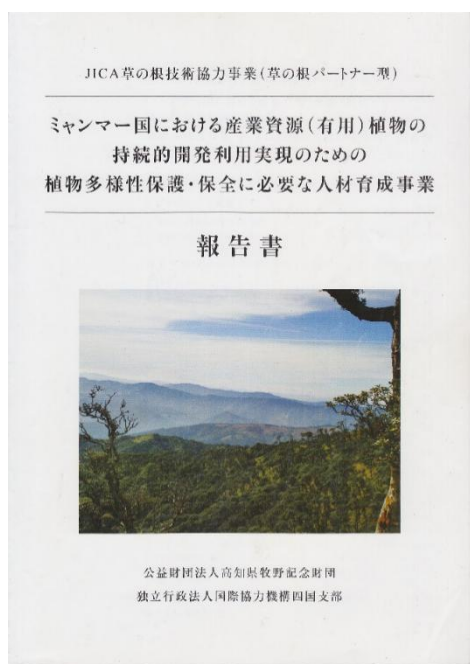
そして2014年6月20日付のふろタン通信No. 3は6月6日にNPO法人設立認証書が届いたことを「ふろタン工房本格スタート宣言」という見出しで発信、その時点での賛助会員メンバーのトップには安田重雄さんの名が載っていました。

2. 植物図鑑で森守れ

ふろタン工房で安田重雄さんと藤川和美さんのことを詳しく紹介したのは2015年12月13日に行った第4回ふろタンインタビューです。師走の日曜日の東大本郷キャンパス理学部2号館講堂で行われた「ヒマラヤ植物研究会」創立30周年記念シンポジウムで牧野植物園の藤川和美さんの講演を聞き、その後同じ学内の農学部にある「アースウォッチ・ジャパン」の事務所に移動して安田重雄さんと一緒に「ミャンマー・ナマトン国立公園の植物調査」の話を行いました。

藤川さんは大学卒業後に青年海外協力隊でネパール・ヒマラヤに行き、その後大学院で植物分類学でドクターを取られて牧野植物園の研究者になり、2006年9月から2009年6月のJICAの草の根技術支援プロジェクトに取り組んでいました。

安田さんはミャンマーのナマタン国立公園の有用植物調査現地駐在マネージャーを募っていた牧野植物園に志願して2007年4月から牧野植物園に勤務になり、藤川さんと二人で編集したのが牧野記念財団とJICA四国支部が発行したプロジェクト報告書、2013年3月に登山口で安田さんに偶然お会いしたのがきっかけになって、帰国後に報告書を送っていただきました



2015年の7月8日にふろんていあタウン工房のNPO法人設立1周年記念の懇親会を行い、ビクトリア山第3次隊メンバーの紹介などで30名程が集まった出席者の一人（アルテップの荒川さんだっと思いましたが）が持ってきたのが7月2日付の東京新聞、「植物図鑑で森守れ」という見出しで今迄のナマタン国立公園での植物調査について藤川さんを取材していました。その場で新聞をコピーして出席者全員に配り、見出しの「植物図鑑で森守れ」を第4回ふろタンインタビューのタイトルにしました。

藤川さんの「ミャンマー植物図鑑」への想いを、新聞記事では「植物分類学の父牧野富太郎博士が日本で図鑑をつくったときの想いもきっとこうだったのに違いない」と重ね合わせて書いたり、植物採集に夢中だった富太郎さんが採集した沢山の植物を長蔵小屋に持ち込んだ時、尾瀬の自然保護で有名な平野長蔵さんに「研究ばかりに熱中せずに保護にも熱心になれ」と叱られたという話なども話題にして第4回ふろタンインタビューを終えました。

3. ふろたんインタビュー続編

2018年5月14日付のふろたん通信No. 25、今から5年前の通信ですが、ふろたんインタビュー続編というタイトルで、その1で2015年8月の第3回インタビュー「天空の山と祈りの造形」と、その2で2015年12月の第4回インタビュー「植物図鑑で森守れ」を紹介しています。どちらも活発な時代の雰囲気を感じさせるふろたんインタビューでした。

ふろたんインタビュー続編 その1

「西村公朝 芸術家の素顔」第3回インタビューは、大成浩さんの石空間展の会場で、奥さま栄子さんと一緒に現代彫刻から仏像について戦時中の話まで遡って興味深い話を色々伺いました。その年は栄子さんのお父上の西村公朝生誕100年の年でしたが、大切にされていた公朝作品を吹田市立博物館に寄贈され、**4月21～6月3日収蔵記念特別展**が開催されました。千里ニュータウンの一角にある博物館でのオープニングイベントでは、弟の愛宕念仏寺住職西村公栄さんのシンセサイザー演奏の後、栄子さんが「祈りの造形の原点を歩くー中国従軍編」という題で講演されました。



ふろタンインタビュー続編 その2

「ミャンマー大紀行」が大盛況で幕を閉じました。第4回インタビューは2015年12月、アースウォッチ・ジャパンの安田重雄さんと高知県立牧野植物園の藤川和美さんに「植物図鑑で森守れ」というお話を伺いました。2017年の12月から**牧野植物園企画展「ミャンマー大紀行・碧き回廊をゆく」**が5月6日迄行われ、現地見学ツアーのガイドなど藤川さんが中心になって活躍されていました。2014年3月のふろタン工房第2次隊（赤川隊長）がカンペレで会った、ウ・シェイン元ナマタン国立公園事務所が4月28日のアースウォッチの報告会に参加後、30日の牧野植物園での講演会に出席されています。



2年前の5月に発刊した「**ふろタン年表2021**」を覗いてみてください。（ふろんていあタウン工房ホームページの出版コーナーでネット販売しています）

牧野植物園のことが色々と載っています。ふろタン工房は高知の現地見学ツアーにも出掛けていますし、朝ドラ「らんまん」はあまり観ていませんが、「ふろタン工房も牧野植物園とは色々と付き合いがあったね」と声を掛ける人がいるのもナットク出来る感じです。